

## 1. 実施計画

研究区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実践研究 ( 1 )	<input type="checkbox"/> 調査研究 ( )
研究タイトル	知的障害児・発達障害児の肥満予防対策としての運動プログラム開発	
<b>研究目的（研究の背景を含む）</b> <p>申請者の所属する岡山県南部健康づくりセンターは、県民の健康づくりを支援することを目的に岡山県により開設された健康増進施設であり、公の施設として、民間の運動施設では受け入れが難しい知的障害、発達障害の人の利用も積極的に受け入れている。知的・発達障害の人の多くには肥満が認められ、その背景としてこだわりの強さから惹起される食生活の偏りや運動習慣の乏しさ、あるいは、肥満により生じる健康問題について十分に理解していないことなどが考えられる。当施設ではそのような知的・発達障害で高度肥満の人が、減量のために介助者とともに利用されるケースもあるが、もともと身体を動かす習慣がない人が多く、運動継続が難しいことが少なくない。</p> <p>このような事例を経験する中で、子どものころから身体を動かす習慣を身につけ、肥満にならないように予防していくことこそが、知的・発達障害の人の健康づくりには不可欠なのではないかと考えるに至った。そこで、本研究の共同研究者である伊藤（岡山大学教育学部教授・同附属特別支援学校校医）と意見交換を行ったところ、特別支援学校においても肥満対策が重要であり、運動習慣を子どものころからつけておくことが大切であると認識されているものの、必ずしも十分な対応が取れてはいない現状があるとのことであった。</p> <p>そこで、健康運動指導の専門家である申請者と知的・発達障害児の特性や健康管理に詳しい特別支援学校の校医・教員とが協働して、これらの児が楽しみながら運動習慣を獲得し、日々実践していくことができるような運動プログラムを開発できないかと考えるに至った。</p> <p>したがって、本研究の目的は、健康運動の専門家と知的・発達障害児についての専門家との共同作業によって、これらの児のための肥満予防対策としての運動プログラムを開発することにある。</p>		
<b>研究計画（対象・フィールド、方法、スケジュール）</b> <p>研究は4段階に分かれる。</p> <p>①知的・発達障害児の特性の把握： まず、対象となる児の特性を把握、理解し、申請者、共同研究者と特別支援学校の校医・教員との間で、運動プログラムを作成するうえでの共通認識を深めるために会議を行う。また、児の特性などへの理解を深めるために、特別支援学校への訪問も行う。（平成29年5月～7月）</p> <p>②運動プログラムの開発： 知的・発達障害児を対象とした運動プログラムの開発を行う。対象が児童、生徒であるため、発達の観点から適切な身体活動となるように、岡山大学スポーツ支援室の鈴木が開発に加わる。また、申請者の所属施設所長の関が研究者間の連携と調整を行う。（平成29年7月～10月）</p> <p>③運動プログラムの実践と評価： 開発した運動プログラムについて、校内でどのように活用できるかを、特別支援学校の教員とともに検討する会議を行う。また、協力していただける特別支援学校を募り、実際に教材として使っていただいて、その評価を学校の校医・教員および児童生徒、保護者へのアンケート調査により把握する。なお、アンケート調査については事前に研究倫理審査委員会での承認を得たうえで実施する。（平成29年10月～平成30年1月）</p> <p>④運動プログラムの公開 開発した運動プログラムを紹介するパンフレットとビデオを作製し、保護者に配布するとともに、特別支援学校等へも郵送にて送付する。また、インターネット上に掲載し希望する人に使っていただけるようにする。（平成30年1月～3月）</p> <p>なお、本研究の成果は研究終了後に日本学校保健学会などで発表する。また肥満予防の効果がどの程度得られるかの追跡も必要であるが、これについては別途計画する予定である。</p>		
<b>研究成果の意義や活用のしかた</b> <p>これまで問題があると認識されてはいたものの、必ずしも十分な対策が行われてこなかった知的・発達障害児（者）の肥満対策について、健康運動指導の専門的立場から検討を行い、知的・発達障害児に効果的な運動プログラムの作成を試みる点に本研究の特色がある。</p> <p>本研究の成果は研究計画の④に示すように公開するので、知的・発達障害児の肥満対策に広く使っていただけるものと考えられる。</p>		